

校長室便り

牛島小学校

6-1号



先日の朝会で校訓「誠実」の中の「思いやり〜命を大切にする〜」について次のような話しました。ご家庭でもお花の世話をしている方がいると思います。話し合ってみてください。

外国のとある高級ホテルでお掃除の仕事をしている女性がいました。名前は〇〇、香川県出身の二十四才です。目立たない仕事でしたが、とてもやりがいを感じていました。

このホテルでは、ロビーに飾る花を毎日入れ替えており、宿泊客を楽しませています。入れ替えのため、まだ美しい花も捨てられていました。〇〇はそれらの花の中からまだ生けられそうな花を拾い出し、廊下の花瓶にそっと飾り付けていました。

〇〇は小さい頃、生け花についてお婆ちゃんから教えられました。「花は命よ。その命を一番美しい姿で見せてあげなさい。」〇〇はホテルで働き始めてからもお婆ちゃんの言っていたことをずっと欠かさずやってきました。

その姿を見て同じホテルで働く仲間が不思議そうに、そして少し馬鹿にしたように笑いながら〇〇に聞いてきました。「一体何をしているの？日本の生け花ってそんなに時間をかけるものなの？この国ではさつと花瓶に入れてほんの数秒で完成よ。」他の仲間も笑っていました。〇〇はただ黙って微笑んで聞いているだけでした。

ある日、ホテルの支配人から連絡がありました。「来週、このホテルに王様が泊まる。数日間の予定だが、もしこのホテルのことを気に入ってもらえると、王様御用達のホテルとなる。粗相のないようしつかりとおもてなしするように。」

いよいよ王様が来る当日となりました。ホテル全体が大変な緊張感に包まれていました。ロビーにはとびきり高級な花がたくさん飾られていました。しかし、王様はどこか浮かない顔をして満足しているような様子がありませんでした。

一方、〇〇はいつものように花を拾ってきて廊下に飾り付けていました。その時、王様がそこを通りかかりました。王様の表情が明らかに変わり、〇〇に尋ねました。「この花は、あなたが生けたの？」〇〇は答えました。「捨てられる花がもったいなくて…」王様は続けました。「この花を私の部屋にも飾り付けてくれないか？」

〇〇は翌朝、王様の部屋に行き、窓辺にあった花瓶に一花ずつ光が差し込む方向を考えながら丁寧に生けました。傷んだ花びらを摘み取り、残った花の命を生かして生けました。完成した花瓶の花を見た王様の目には涙が浮かんでいました。「私はこれまで教え切れないくらい豪華な花を見てきた。しかしこれほど命を感じた花を見たことがない。」

翌朝、王様はこのホテルと王室御用達のホテルとして契約を交わしました。そして支配人に言いました。「どんなに豪華な花よりも、一輪の花に命を感じ大切にできる人が働いているこのホテルは素晴らしい。」

学校では、教室での学びだけではなく、実際に見たり、触れたりすることで子供たちの心が大きく成長すると考え、自然体験や地域との交流などを積極的に計画しています。また放課後には、金管バンドや器械体操、水泳、陸上等の練習にも取り組んでおり、子供たちが自らチャレンジし、困難や失敗を乗り越え、目標を達成した喜びを実感できる機会を設けています。これらの活動は子供たちがこれからの社会を生き抜いていく力の基盤作りになると考えます。是非とも積極的な参加を子供たちに勧めてください。

